

## 目 次

「言語研究と言語学の進展シリーズ」の刊行にあたって v  
はしがき vii

### 第 I 部 最新の文構造研究と統語論の進展

福田 稔・中村浩一郎・古川武史

第1章 概 要	2
第2章 基礎内容部門	3
2.1. ミニマリスト・プログラム	3
2.1.1. ラベル	5
2.1.2. 帰結	10
2.1.3. 併合	12
2.1.4. フェイズ	15
2.1.5. that 痕跡効果	19
2.1.6. EPP	21
2.2. カートグラフィー	24
2.2.1. トピック・フォーカス構造	25
2.2.2. 左周辺部	27
2.2.3. 日本語の分析	29
2.2.4. 基準凍結	30
第3章 応用進展編	32
3.1. ミニマリスト・プログラム	32
3.1.1. 主要部と主要部の併合	32
3.1.2. ラベルを欠く統語構築物	35
3.1.3. 格助詞とラベル	39
3.1.4. 主要部の外的対併合	40
3.1.5. 右方移動とフェイズ	43

3.2. カートグラフィー .....	49
3.2.1. イタリア語 .....	50
3.2.2. ハンガリー語 .....	51
3.2.3. ポーランド語 .....	52
3.2.4. ベルシャ語 .....	53
3.2.5. ジャマイカ・クレオール .....	54
3.2.6. 中国語 .....	55
3.2.7. ゲンベ語 .....	57
3.2.8. 日本語 .....	57
3.2.9. 英語 .....	58
3.2.10. さらなる展開 .....	61
3.3. ラベル理論とカートグラフィー .....	62
3.3.1. 最大性の原理 .....	62
3.3.2. 架橋動詞と小節 .....	64
3.3.3. 裸句構造における主要部と句 .....	66
3.3.4. 句と主要部の区別 .....	69
3.3.5. 主語基準と that 痕跡効果 .....	72
3.3.6. 空主語言語 .....	73
3.3.7. 焦点位置での凍結現象 .....	75
3.3.8. 補文と生起位置 .....	79

## 第 II 部 最新の音声学・音韻論研究の進展

都田青子・近藤眞理子・西原哲雄

第 1 章 音の世界への誘い <sup>いざな</sup> .....	84
1.1. はじめに .....	84
1.2. 「言語能力」と「言語運用」 .....	84
1.3. 「音声学」vs. 「音韻論」 .....	87
1.4. 音の世界におけるさまざまな単位 .....	93
1.4.1. 語よりも小さい単位 .....	94
1.4.1.1. 分節音 (音素) vs 音韻素性 .....	95
1.4.1.2. 音節 vs モーラ .....	99
1.4.1.3. フット (韻脚) .....	104
1.4.2. 語よりも大きい単位 .....	107
1.5. まとめ .....	109

第2章 第一・第二言語の音声特性と音声習得	112
2.1. はじめに	112
2.2. 日本語母語話者にとって習得が困難な英語の音	113
2.2.1. 日本語話者の英語音声エラー	113
2.2.2. 英語子音習得の問題	115
2.2.2.1. 子音の分類	115
2.2.2.2. 日本語話者の英語子音の習得の問題点	116
2.2.3. 母音	119
2.2.3.1. 母音の分類	119
2.2.3.2. 日本語話者の英語母音の習得の問題点	122
2.2.3.3. 母音のエラーと韻律との関係	125
2.3. 日本語話者の英語音声発話の特徴	127
2.3.1. 母音の弱化と挿入問題	127
2.3.2. 日本語話者の英語母音の音響特性	128
2.3.3. 挿入母音の音響特性	131
2.3.4. 母音の音質と文字の関係	132
2.4. 日本語訛りの英語の評価	135
2.4.1. 非英語母語話者による L2 英語音声評価の必要性	135
2.4.2. 母語の異なる評価者による日本語訛りの英語の評価	136
2.4.3. 結果	137
2.4.3.1. 評定者の母語による評定の相関	137
2.4.3.2. 英語話者の評定と日本語話者の評定の比較	140
2.4.4. 考察	141
2.5. まとめ	142
第3章 音律音韻論と音韻分析	144
3.1. はじめに	144
3.2. wanna 縮約	155
3.3. 痕跡と音韻規則	156
3.4. 重名詞句移動と音韻論	159
3.5. A-An Alternation Rule (不定冠詞交替規則)	160
3.6. 音韻規則適用と強勢・焦点付与	162
3.7. まとめ	168

### 第 III 部 最新のレキシコンと形態論の進展

長野明子

序章	はじめに	170
第 1 章	語彙素とその語形, 内容語と機能語	173
1.1.	もっとも基本的な分類	173
1.2.	具現中心主義と分離仮説	177
1.3.	言語・方言間の違いのありか	181
1.4.	パラダイム中心主義の記述	182
1.5.	理解を深めるためのアナロジー	186
第 2 章	語彙素のレキシコン表示と語形変化	188
2.1.	語彙主義とは何か	188
2.2.	語彙素の情報	190
2.3.	$G_L$ 対 $G_I$ という区別と名詞の語形変化	195
2.4.	動詞の語形変化	199
2.5.	まとめ	204
第 3 章	レキシコンの拡大 I: 語形成	208
3.1.	語彙素形成	208
3.2.	語形成の形態的分類	209
3.3.	語形成規則	213
3.4.	語彙的交替	216
3.5.	Transposition	217
3.6.	品詞と意味を変更する派生	223
3.7.	英語の接頭辞付加	226
3.8.	まとめ	230
第 4 章	レキシコンの拡大 II: 借用	232
4.1.	言語接触とレキシコン・形態論	232
4.2.	借用と複製, 借用と強制	233
4.3.	語彙的借用と文法的借用	237

4.4. 接辞の借用 .....	242
4.5. マター借用とパターン借用 .....	248
4.6. まとめ .....	254
第5章 総括 .....	255
参考文献 .....	259
索引 .....	285
執筆者紹介 .....	293